

目 次

はじめに

第1章 グローバル・ガバナンス時代における会計情報の動向 —国際標準化機構（ISO）に関連させて—	椋田龍三 ……………	1
第2章 受託責任拡大化と会計理論・会計ディスクロージャーの変容	河崎照行 ……………	17
第3章 不動産開発型の特別目的会社の連結と情報開示	名越洋子 ……………	27
第4章 企業価値をIRするために必要な将来会計 —ガバナンスおよび投資家との対話の共通基盤として—	竹原相光 ……………	37
第5章 退職給付情報の開示規制とIRの課題	挽直治 ……………	55
第6章 日本版スチュワードシップ・コードの現状・課題と それに対応した理論的モデル化の必要性	椋田龍三 ……………	61
第7章 日本版スチュワードシップ・コード前後での議決権行使状況	円谷昭一 ……………	71
第8章 日本版スチュワードシップ・コードの現状と 今後、企業側の対応への指針	岩田宜子 ……………	79
第9章 三菱電機(株)のIR活動の取組み	佐藤行弘 ……………	91
第10章 統合報告書と期待されるIR活動 ～成長戦略を訴求する～	近藤一仁・大津克彦 ……	109
第11章 持続的な企業価値の向上に貢献する統合報告書のための バランス・スコアカード（BSC）の役割 —造船企業F社のBSCの事例から—	宮地晃輔 ……………	121
第12章 統合報告のIR・会計制度への含意	越智信仁 ……………	131
終章—総括—	椋田龍三 ……………	153